脇　里づくり計画

グリーン・フラワー・レーン　WAKI

平成１４年３月

（第１回変更　令和５年 12 月）

脇里づくり協議会

脇里づくり計画の策定にあたって

平成 13 年 3 月 1 日
脇里づくり協議会
会長　岸野　敏數

私たちの集落脇は，両端を市街地に挟まれ，伊川谷駅前周辺の開発が進み，都市化の波がすぐ側まで押し迫っているところです。

集落の戸数は全部で 21 戸とこじんまりとしていますが，特に花壇苗の施設栽培が盛んであり，また野菜も露地・ハウス栽培を主体に専業率も高く，幸い後継者にも恵まれ，都市近郊農業を支えていく上で心強く感じております。

ただ，土地基盤整備は諸事情により未整備の状態で，田畑が不整形で大型機械の導入に支障をきたしたり，農地が分散しているため，施設の利用効率が悪いこと，また，農道の一部が狭いなど問題点も多々抱えています。

これから 21 世紀を迎えて私たちの子どもや孫など，次代を担う世代が集落に明るい展望を持って対処できるような環境づくりをしていくのが，私たちに課せられた課題であり使命だと考えています。

この里づくり計画が，その端緒にでもなればと願っている次第であります。そして，この地に生まれてよかった，住むことができて幸せだ，と後世の人々に誇れるような集落にできれば，これに勝る喜びはありません。その実現に向けて微力ながら，みんなで力を合わせていきたいと思います。

脇村由来の石碑　：　脇集落センター

脇里づくり計画　目次

脇里づくり計画の策定にあたって

Ⅰ　地域の概況

1　地区の位置及び区域

上脇地区は，伊川谷町の中ほどに位置し，区域の南端部を県道明石・神戸・宝塚線が通過している。

地区の東側は市営地下鉄伊川谷駅が，西側には池上地区があり，市街化区域に挟まれている。南側は道路沿いを伊川が流れ，北側は国有林を中心とする山林（表山）が迫り，東西に細長い集落である。隣接する集落は，東側は前開下，西は池上，山を挟んで北側は吹上，そして伊川を挟んで南側は小寺の各集落である。

特に伊川谷駅周辺は，脇・吹上・前開下の 3 集落が重なり合うようにして錯綜しており，非常に入り組んだ様相を呈している。

そして，第２神明道路北線（神戸西バイパス）が集落を分断するように通っている。

脇地区全体図

2　地区の気象

当地区は，昔から比較的天候に恵まれ，大きな水害は受けていない。また厳冬期でも積雪はあまりなく，農作業に適した土地柄である。

3　地区農業の歴史及び自然

当地区での田植えの水の確保は，他所では見られない手法を用いている。それは，新池上（かみ）の地区の田に，伊川から引き込んだ水を張り，あたかも池のような状態に保ち，下（しも）の地区の田へ水を供給するという役割を果たしている。したがって，新池上の地区の田植えは，下の地区の田植えが終わってからになるので，概ね1ヶ月ぐらいずれ込む。これは，長年の慣行として集落内での合意がなされている。この手法は，先人から長く受け継いできたことで，詳しいことは不明だが，江戸時代から伝えられている。6月の梅雨期に当地区で見られる風物詩といえよう。

水張りしている状態の新池上の地区の田

当地区は土地基盤整備をしていないので，農地が未整備な点は，農作業上は確かにマイナスであることは否めないが，見方を変えればプラス面もある。たとえば，側溝にはシジミが生息するし，多くの小動物もいる。ため池には冬になると多くの種類の鴨類が飛来するし，コサギ，ダイサギ，ゴイサギなどのサギ類を始め，カイツブリやバンなどの水鳥も結構多い。また，鳥の宝石と呼ばれるカワセミも，その美しい姿を年中見せてくれる。他にも多くの小さな生物が集落内の水路やため池等で見られ，自然が豊かなことの証明でもある。

4　地区の農家人口・農地面積等

（農林業センサス　　単位：戸，人）

	農家数	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数	農家人口	男	女
1980年	19	7	9	3	104	50	54
1985年	21	13	5	3	107	51	56
1990年	21	14	2	5	106	49	57
1995年	21	11	5	5	103	49	54
2000年	20	16	—	4	98	47	51

（農林業センサス　　単位：a）

	農地面積	田	畑	樹園地
1980年	2,621	2,274	341	6
1985年	2,320	2,218	102	
1990年	2,445	2,168	277	
1995年	2,364	1,930	414	20
2000年	1,935	1,816	119	

5　歴史・史跡・伝統文化の復活等

福林寺

当寺は，集落内の中央部の里山に張り付くように立地している。阪神淡路大震災の時に全壊し，建て替えられた。寺院の中に祭ってあった仏像は，無事で保存状態もよく，2～3年前に極彩色を施した木像として新築の当寺に保存されている。なお，当寺は，昭和10年前頃までは尼寺で尼僧が住んでいたこともあったが，今は無人となっている。

再建した福林寺

福林寺の仏像

脇大歳神社(脇の大歳さん)

当神社の創立の時期は，はっきりしないが，『明細帳』には「承応２年(1653)7月吉日の棟札有」と記されている。稲蒼神は大年神，豊受比賣神であって，素佐之男神の御子で，一切の食物を司り給う神である。祭礼は春祭り(成人の日)，秋祭り(9月12日)であり，ハナフリ神事が今も残る。ハナフリ神事とは，各自が榊の小枝を持ち，「米来い米来いヨイヨイヨイ」「麦来い麦来いヨイヨイヨイ」，「豆来い豆来いヨイヨイヨイ」と唱え，榊を上下に振る。これを三回繰り返して豊作を祈る祭りである。

脇大歳神社(脇の大歳さん)

伊川谷惣社

当神社は，創立時期が不詳であるが，延久3年（1071年）の再建と伝えられ，宝暦11年（1761年）に旧社殿の古材を用いて造営され，平成9年10月に，伊川谷14集落の総氏神として大改修がなされている。

神祭は，元旦祭(1月1日)，春祭り(4月1日)，夏祭(7月14日)，本宮祭(10月第1土曜日及びその翌日)，新嘗祭(11月23日)の5祭事があり，14集落が輪番で担当している。

伊川谷惣社(正面)

伊川谷惣社本殿

夏祭り風景

本宮祭の奉納相撲

大太鼓屋台の宮入り(本宮祭)

ドント焼き（まつり）

正月の行事の一環として，しめなわ，しめかざり，門松などを，松の内が過ぎた時点で焼く行事であり，その際に鏡餅なども一緒に焼いて子供達に配り，人々に親しまれてきた。一昔前は全国各地の農村に普遍的に見られる行事であったが，次第に行われなくなった。

当地区でも10年前ぐらいまでは，集落の行事として行われていたが，現在は戸別に行っている。このため里づくりの一環として，この行事を地域全体のものとして復活し，地域の連帯を深めるのに役立てたい。

6　アンケート調査の概要（平成12年7月実施）

脇地区住民の農業や農地，生活環境等に関する意向を把握するためにアンケート調査を実施し，20名の回答を得た。対象数21名で未回収は1名のみであった。

アンケート調査の概要は，以下のとおりである。

(1) 家族や農業経営について

- 世帯主の75%が農業に従事している。
- 後継者については，半数弱がいない，決まっていないなど若干将来に不安を抱いている。
- 集落内の休耕地については，委託先があれば改善できる。
- 農業経営上の問題のうち，悩みは農産物価格が割安なこと，次に農業生産資材の価格が高いことをあげている。
- 楽しみは，自分のペースで仕事ができ，時間にとらわれないことである。
- 将来については，現状維持程度という回答が半数を占めたが，農業にもっと力を入れたいという答えも多く，農業に対する意欲が強い。
- 経営規模の拡大については，施設野菜，露地野菜，花卉の生産者が意欲を示している。

(2) 集落の環境について

- 生活環境面では，買い物に便利なこと，伊川谷駅に近くバスターミナルもあり，バスの便もよいこと，医療施設，集会所，集落の家並み，公園などについても多数の人が満足している。
- 不満が多かったのは，伊川やため池の水質が悪いこと，排水路の整備状況，生活道路の整備状況，里山の手入れなどについてである。
- 集落の将来については，土地基盤整備と都市的区画整理の一体的な整備を求める声が多く，次いで農村的な環境の保全を重視し，水路や農地，農道等の整備を進めるとなっている。

(3) 今後の土地利用について

- 所有農地は，当面農地として利用するが，将来的には周囲の状況を見ながらどうするかを考えるという人が殆どである。
- 農業の活性化では，営農で困ることとして，機械作業がやりづらい（土地基盤整備がされていないため），必要なときに農業用水の確保ができない，などをあげている。
- 脇地区の農地や農業の役割として，食糧生産機能を第1に，次いで安らぎのある景観をあげている。

※詳細は次ページを参照されたい。

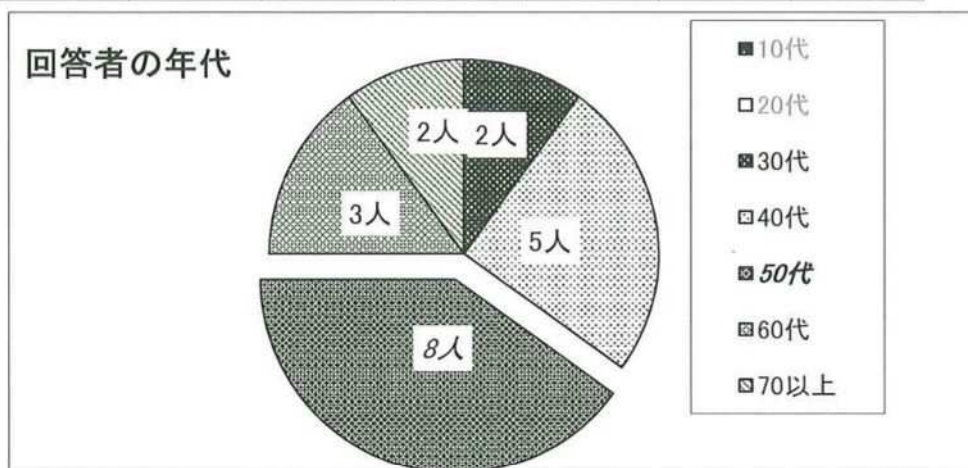
脇　里づくり アンケート集計結果

回答者数
20人

Ⅰ 家族や農業経営等

問1 回答者の性別　　男性　　回答数　20人

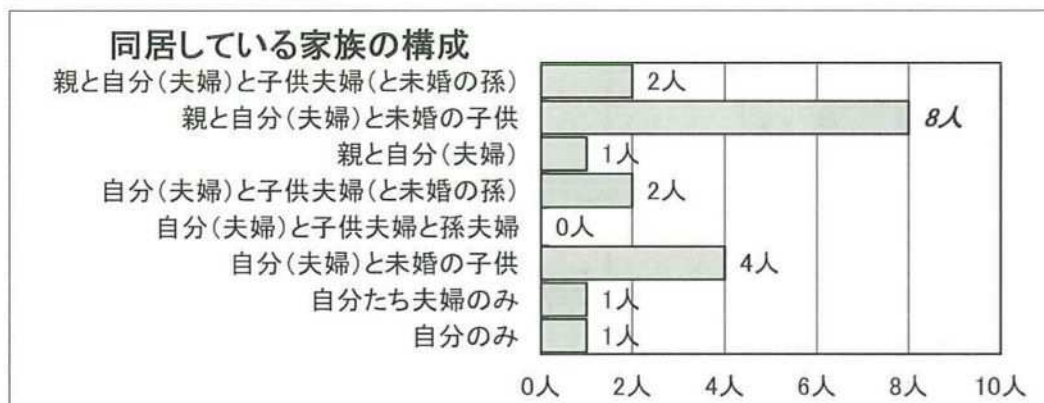
問2 回答者の年代　　回答数　20人

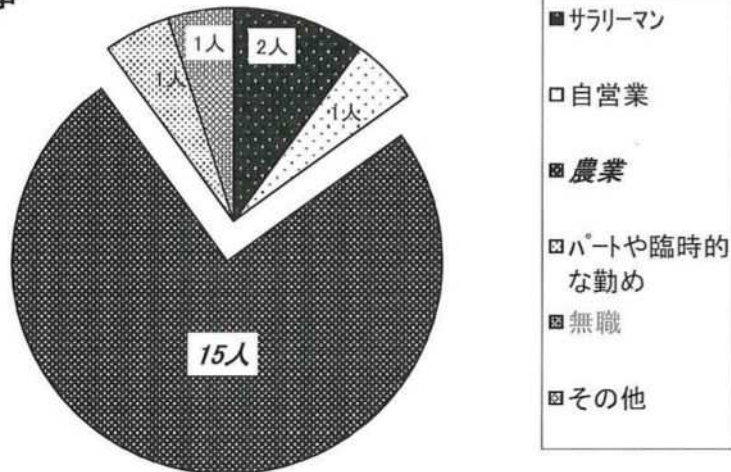
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
0人	0人	2人	5人	8人	3人	2人
0%	0%	10%	25%	40%	15%	10%

問3 同居している家族の構成　　回答数　19人

構成	人数	割合
親と自分（夫婦）と子供夫婦（と未婚の孫）	2人	11%
親と自分（夫婦）と未婚の子供	8人	42%
親と自分（夫婦）	1人	5%
自分（夫婦）と子供夫婦（と未婚の孫）	2人	11%
自分（夫婦）と子供夫婦と孫夫婦	0人	0%
自分（夫婦）と未婚の子供	4人	21%
自分たち夫婦のみ	1人	5%
自分のみ	1人	5%

同居している家族の構成

親と自分（夫婦）と子供夫婦（と未婚の孫）　2人
親と自分（夫婦）と未婚の子供　8人
親と自分（夫婦）　1人
自分（夫婦）と子供夫婦（と未婚の孫）　2人
自分（夫婦）と子供夫婦と孫夫婦　0人
自分（夫婦）と未婚の子供　4人
自分たち夫婦のみ　1人
自分のみ　1人

0人　2人　4人　6人　8人　10人

問4 世帯主の仕事　　　　　　　　　　　　　　　　　　回答数　20人

サラリーマン	自営業	農業	パートや臨時的な勤め	無職	その他
2人	1人	15人	1人	0人	1人
10%	5%	75%	5%	0%	5%

問5 経営農地面積等

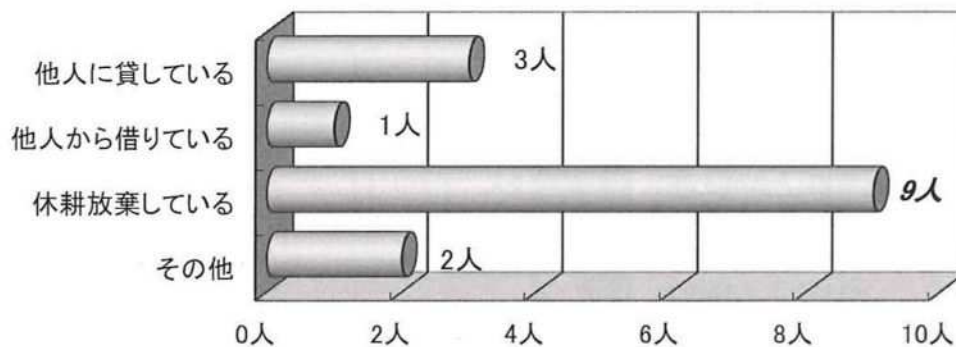
(1) 所有農地面積

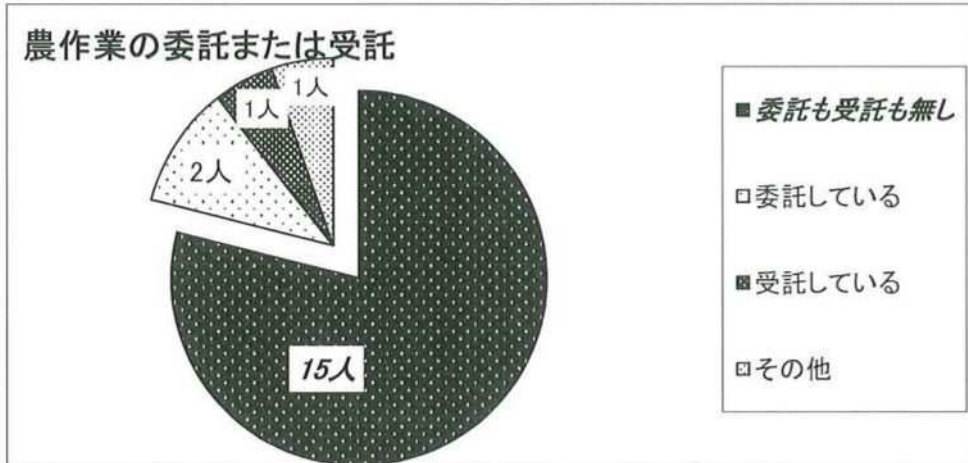
平均面積　7,030㎡　回答数 20人

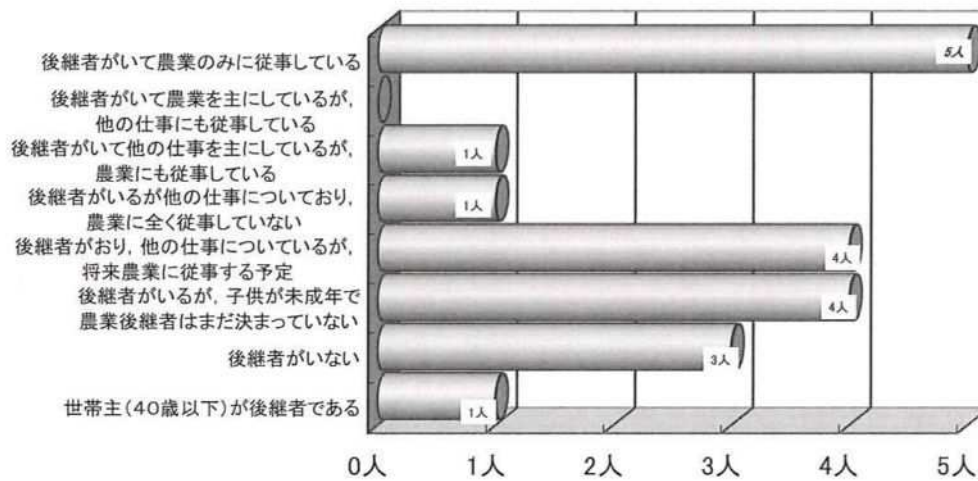
(2) 耕作面積

平均面積　6,454㎡　回答数 19人

(3) 所有面積と耕作面積が異なる理由　　　　　　　　　　回答数 15人

他人に貸している	他人から借りている	休耕放棄している	その他
3人	1人	9人	2人
20%	7%	60%	13%

問6 農作業の委託または受託　　　　　　　　　　回答数 19人

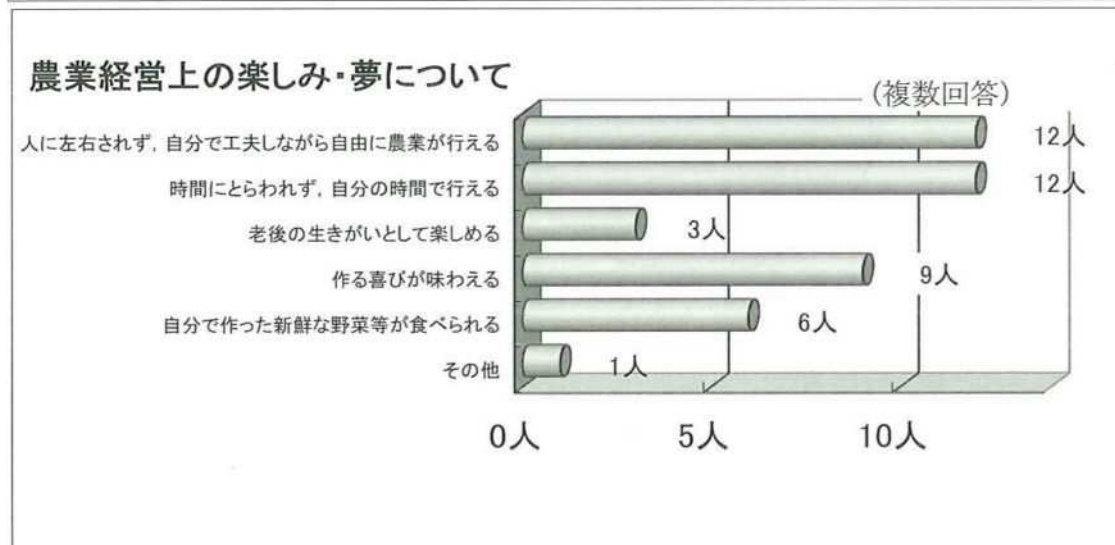
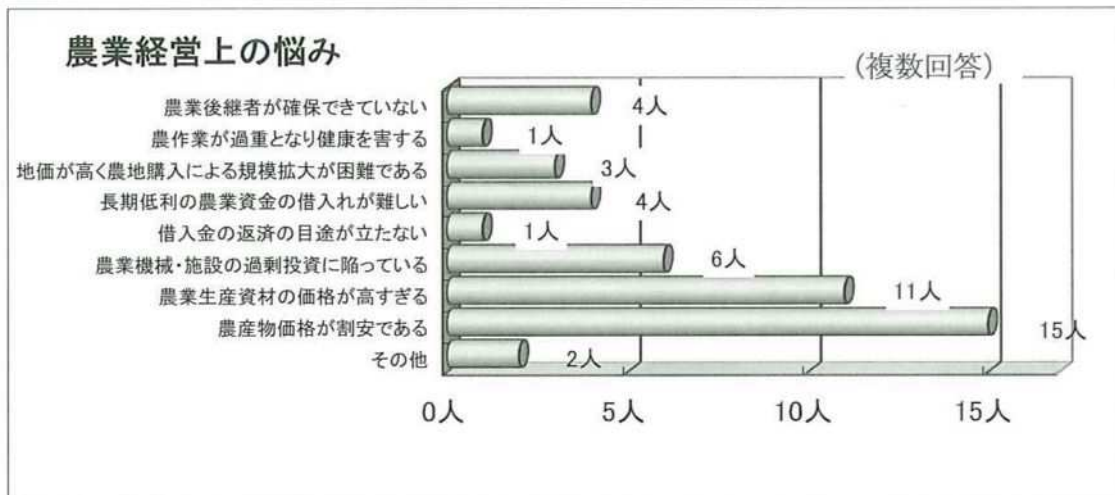
委託も受託も無し	委託している	受託している	その他
15人	2人	1人	1人
79%	11%	5%	5%

問7 農業後継者の状況　　回答数　19人

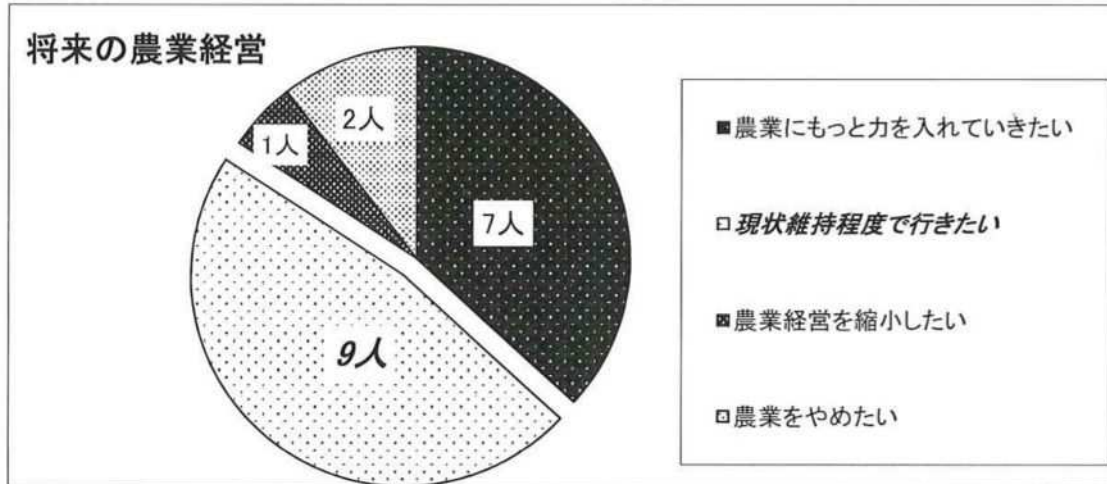
区分	人数	割合
後継者がいて農業のみに従事している	5人	26%
後継者がいて農業を主にしているが，他の仕事にも従事している	0人	0%
後継者がいて他の仕事を主にしているが，農業にも従事している	1人	5%
後継者がいるが他の仕事についており，農業に全く従事していない	1人	5%
後継者がおり，他の仕事についているが，将来農業に従事する予定	4人	21%
後継者がいるが，子供が未成年で農業後継者はまだ決まっていない	4人	21%
後継者がいない	3人	16%
世帯主(40歳以下)が後継者である	1人	5%

問8農業経営上のことについて

(1)農業経営上の悩み　回答者　20人

農業後継者が確保できていない	4人	20%
農作業が過重となり健康を害する	1人	5%
地価が高く農地購入による規模拡大が困難である	3人	15%
長期低利の農業資金の借入れが難しい	4人	20%
借入金の返済の目途が立たない	1人	5%
農業機械・施設の過剰投資に陥っている	6人	30%
農業生産資材の価格が高すぎる	11人	55%
農産物価格が割安である	15人	75%
その他	2人	10%

(2)農業経営上の楽しみ・夢について　回答者　18人

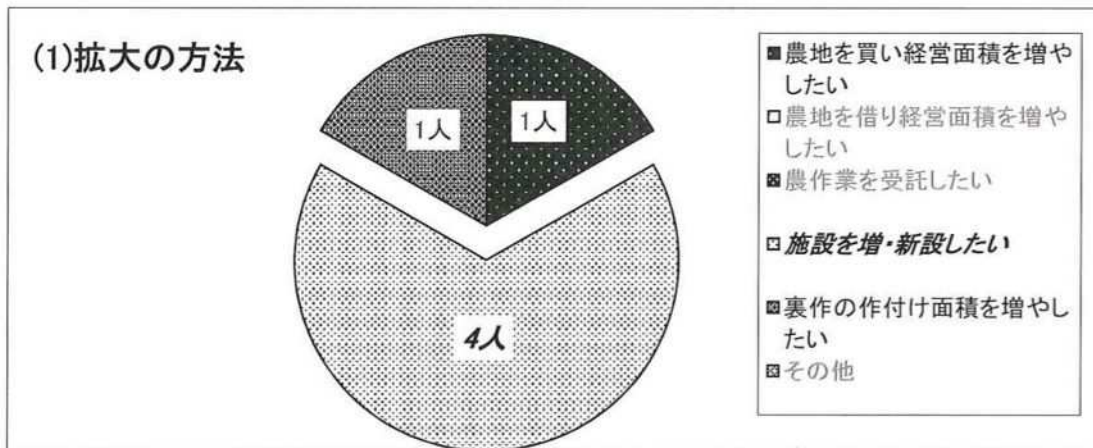
人に左右されず，自分で工夫しながら自由に農業が行える	12人	67%
時間にとらわれず，自分の時間で行える	12人	67%
老後の生きがいとして楽しめる	3人	17%
作る喜びが味わえる	9人	50%
自分で作った新鮮な野菜等が食べられる	6人	33%
その他	1人	6%

問9 将来の農業経営　回答数　19人

問9 将来の農業経営	回答数	19人
農業にもっと力を入れていきたい	7人	37%
現状維持程度で行きたい	9人	47%
農業経営を縮小したい	1人	5%
農業をやめたい	2人	11%

問10　訪9で農業拡大を選択した方の方向

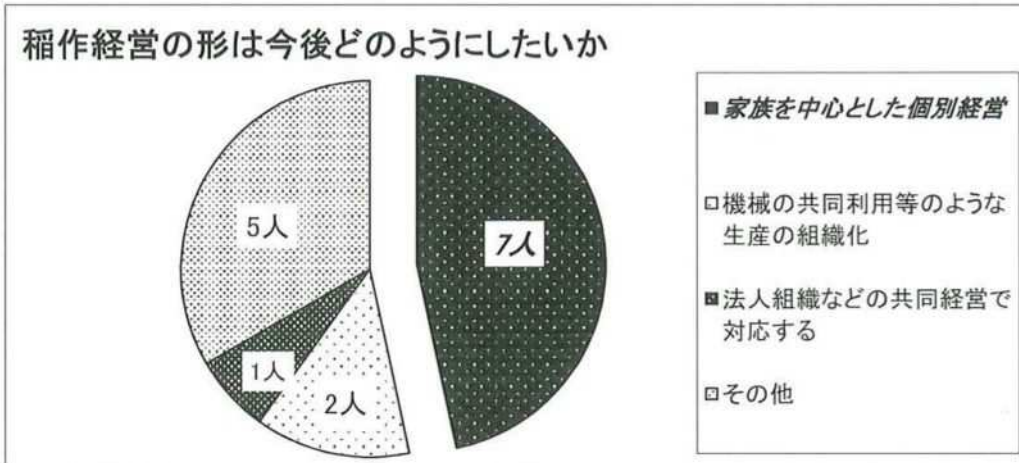
(1)拡大の方法　回答者　6人

農地を買い経営面積を増やしたい	1人	17%
農地を借り経営面積を増やしたい	0人	0%
農作業を受託したい	0人	0%
施設を増・新設したい	4人	67%
裏作の作付け面積を増やしたい	1人	17%
その他	0人	0%

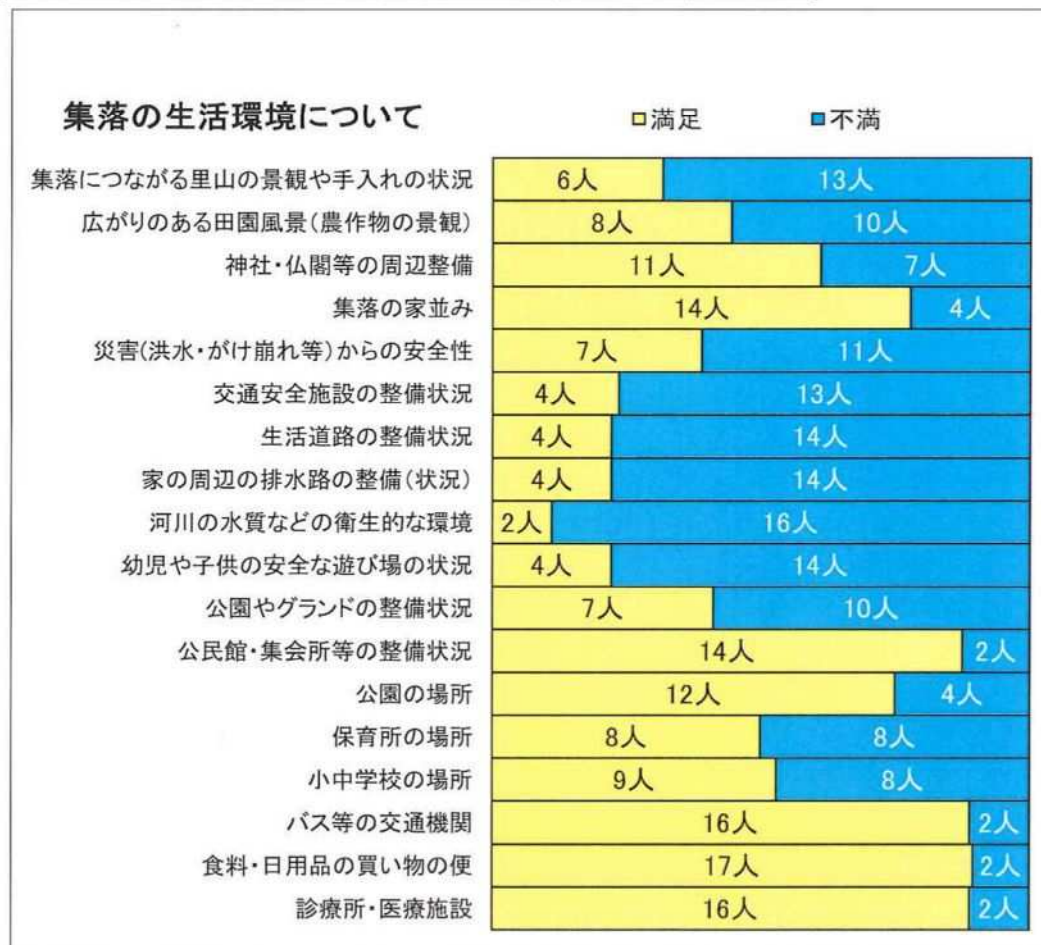
(2)拡大部門　回答者　5人

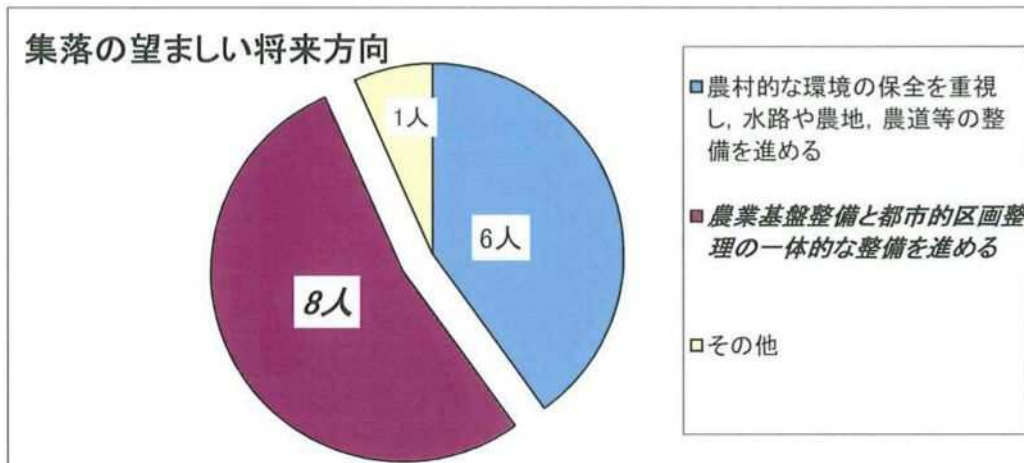
稲作	0人
露地野菜	1人
施設野菜	2人
果樹	0人
花卉	2人

問11 問9で縮小またはやめたいを選択した方 その方法　該当者　3人

農協等の団体に農作業を委託したい	0人	0%
農用地利用集積等により専業農家に貸したい	2人	67%
売りたい	0人	0%
その他	1人	33%

問12 稲作経営の形は今後どのようにしたいか	回答数	15人
家族を中心とした個別経営	7人	47%
機械の共同利用等のような生産の組織化	2人	13%
法人組織などの共同経営で対応する	1人	7%
その他	5人	33%

Ⅱ 集落の環境について

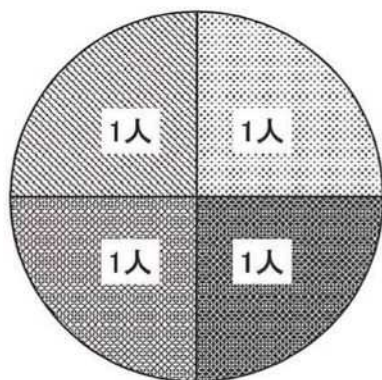
問13 集落の生活環境について

項　　　　　目	満足 ○	不満 ×
集落につながる里山の景観や手入れの状況	6人	13人
広がりのある田園風景（農作物の景観）	8人	10人
神社・仏閣等の周辺整備	11人	7人
集落の家並み	14人	4人
災害(洪水・がけ崩れ等)からの安全性	7人	11人
交通安全施設の整備状況	4人	13人
生活道路の整備状況	4人	14人
家の周辺の排水路の整備（状況）	4人	14人
河川の水質などの衛生的な環境	2人	16人
幼児や子供の安全な遊び場の状況	4人	14人
公園やグランドの整備状況	7人	10人
公民館・集会所等の整備状況	14人	2人
公園の場所	12人	4人
保育所の場所	8人	8人
小中学校の場所	9人	8人
バス等の交通機関	16人	2人
食料・日用品の買い物の便	17人	2人
診療所・医療施設	16人	2人
その他	0人	0人

Ⅲ あなたの集落の将来について

問16 集落の望ましい将来方向	回答数	15人
農村的な環境の保全を重視し，水路や農地，農道等の整備を進める	6人	40%
農業基盤整備と都市的区画整理の一体的な整備を進める	8人	53%
その他	1人	7%

Ⅳ 今後の土地利用について

問17 所有農地の使い方

(1) 今後どのように使うか	回答数	14人
今後少なくとも10年程度は農地として利用するが，その後は周囲の状況を見てきめる	10人	71%
市民農園または貸し農園として都市住民との交流の場にしたい	0人	0%
農地の一部は転用し,売却したい	1人	7%
農地はすべて転用し,売却したい	0人	0%
その他	3人	21%

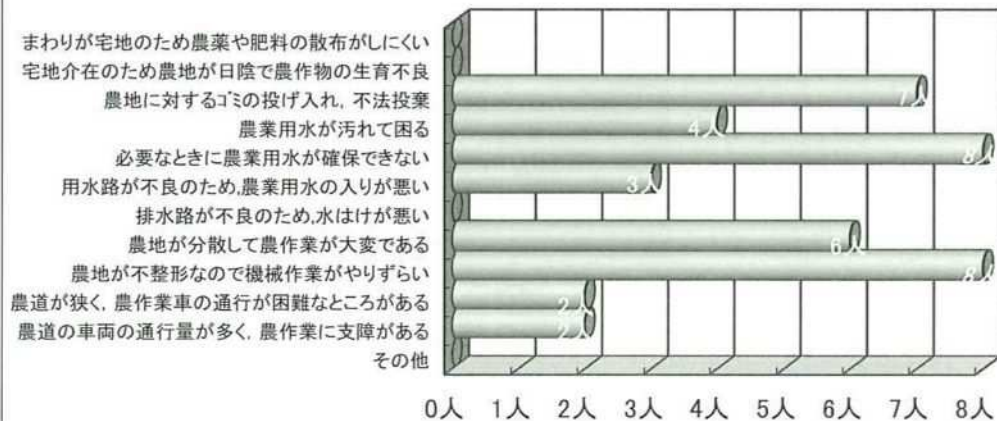
(2) (1)で転用や売却と答えた方の用途	該当者	4人
分家住宅	0人	0%
自己住宅の増築用地	0人	0%
駐車場経営用地	0人	0%
工場・倉庫・店舗等経営用地	1人	25%
市民農園または貸し農園用地	1人	25%
その他	1人	25%

問18 農地の活性化について

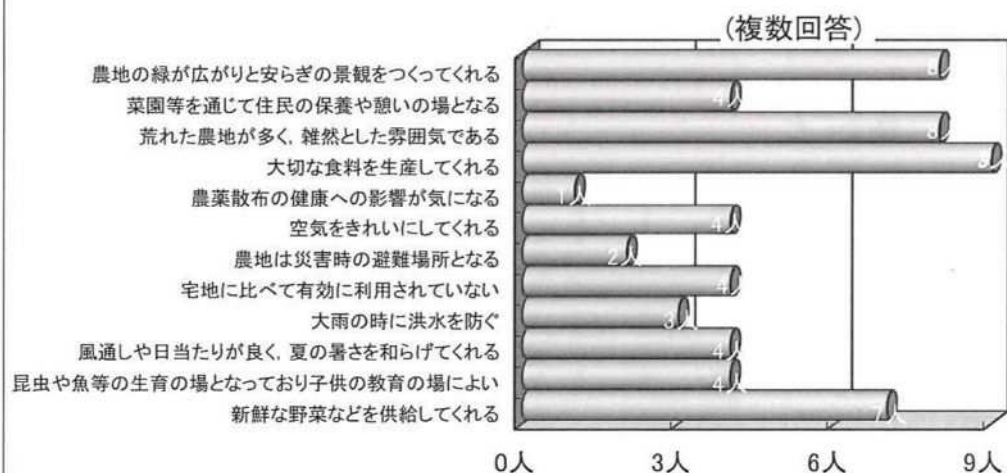
(1) 農業を行う際に困ること　　　　　　　　　　　　　　　該当者　　19人 のうち

項目	人数	割合
まわりが宅地のため農薬や肥料の散布がしにくい	0人	0%
宅地介在のため農地が日陰で農作物の生育不良	0人	0%
農地に対するゴミの投げ入れ，不法投棄	7人	37%
農業用水が汚れて困る	4人	21%
必要なときに農業用水が確保できない	8人	42%
用水路が不良のため,農業用水の入りが悪い	3人	16%
排水路が不良のため,水はけが悪い	0人	0%
農地が分散して農作業が大変である	6人	32%
農地が不整形なので機械作業がやりずらい	8人	42%
農道が狭く，農作業車の通行が困難なところがある	2人	11%
農道の車両の通行量が多く，農作業に支障がある	2人	11%
その他	0人	0%

(2) 農業近代化施設として何が必要か　　　　　　回答者　　19人 のうち

施設	人数	施設	人数
ライスセンター	0人	営農研究指導センター	4人
育苗施設	2人	農機共同利用施設	1人
農産加工施設	0人	特になし	7人
集出荷施設	2人	その他	1人

(1)農業を行う際に困ること

問19 当地区の農地や農業の役割　19人 のうち

農地の緑が広がりと安らぎの景観をつくってくれる	8人	9%
菜園等を通じて住民の保養や憩いの場となる	4人	4%
荒れた農地が多く，雑然とした雰囲気である	8人	9%
大切な食料を生産してくれる	9人	10%
農薬散布の健康への影響が気になる	1人	1%
空気をきれいにしてくれる	4人	4%
農地は災害時の避難場所となる	2人	2%
宅地に比べて有効に利用されていない	4人	4%
大雨の時に洪水を防ぐ	3人	3%
風通しや日当たりが良く，夏の暑さを和らげてくれる	4人	4%
昆虫や魚等の生育の場となっており子供の教育の場によい	4人	4%
新鮮な野菜などを供給してくれる	7人	8%
その他	0人	0%

脇アンケート(自由意見等)の集約

問 14　集落内で保存したい物、場所等について

- 国有林
- 大歳神社、福林寺　～今の集落の原点～

問 15　集落内で特に改善すべきと考えている所について

- 脇地区内の道路、排水路のすべて
- ほ場整備
- 脇地区内のため池(新池)等の水深が浅くなっているため、農業用水の水量が少なくなっているので、雨量が少ないときのことを考えると不安だ。
- 新池の外周道路、道路幅が狭い。
- 防犯のため、道路にもう少し街灯を増やしてほしい。

問 20　自由意見の欄

- 脇部落は野菜、花、農家と自由業の農家に分類されますが、野菜農家の組織が全く整備されていない。したがって花農家に比べて収入も低く、いろいろの面において不都合をきたしている。もっと野菜農家の組織を整備していくことが望まれる。花農家は外に対して非常に閉鎖的でその事がいろいろのことに影響している感がする。
- 荒れた農地が多く、当集落が醜い。
- 自分たちの将来のために、意見集約できるところから土地の有効活用を図るべきである。

その他回答における意見

問 8　農業経営上の質問　　(1)農業経営上の悩み

- 直接税が高すぎる。
- 農業に未来はない。

問 12　稲作経営の今後

- 現在稲は作っていない。今後も同様だ。
- 稲作をしていない。
- やめたい。

問 17　所有農地の使い方　　(2)今後の使い方で転用や売却と答えた人のみ

- マンション計画

7　点検マップ

集落内をアドバイザー及び里づくり協議会役員が点検・調査し，気づいたことについて，始めに列挙し，次いで女性の意見を列挙する。なお，点検マップの作成については女性たちが行った。

点検マップの発表風景

点検マップを作成した方々

（凡例：○マイナス面，●プラス面，□マイナス，プラス両面あり，建設的意見等）

(1) アドバイザー及び里づくり協議会役員による点検・調査

○ セイタカアワダチソウなどの雑草が生えた田が結構多い。
○ 農道に面していない田が多い。
○ 水路の未整備も目立つ。
○ ハウスの中はきれいだが，ハウスの周辺は汚い。
● 個々には差があるが，全体としてみると農業に非常に熱心だ。
● 豪華な農家住宅が多く，ハウスなど立派な施設が多い。この景観は保持してほしい。
● 立派なニレの木や，モミの木がある。
● 福林寺の仏像は，保存状態もよく貴重な文化財である。

(2) 女性会議で出された意見

○ 高速道路の防音壁の延長を望む。車が夜通し走っている。
□ 田んぼの水路の整備が必要だ。農地の有効利用ができる。反面，水路にはシジミやアメリカザリガニが生息するなど自然が残っている。ただし，ザリガニは畔に穴をあけるので困る面もある。
○ ほ場整備が一番大事だ。個々の農家で損得が生じるが，集落全体の利益を考えるべきだ。
□ 出身は神出町だが，里づくり事業が盛んな気がする。レンゲ祭やブロッコリーなど地域の特色を生かしたものだと聞いている。脇でも地域の特色を生かせば，きっと良いものができると思うのだが。
○ 脇は専業農家が多い。土地利用については女性の視点が大事だ。ほ場整備がされていないので私道を通れない。作業に支障をきたしている。

○ 食生活に関しては，昔に比べて便利になったが，明るい見通しが持てない。

○ 道に面していない田んぼが多い。雑草が増える。これもほ場整備が遅れているせいだ。

□ 野菜農家と花農家との格差が大きいように思う。野菜農家に花を植えてもらえるなら，苗をいくらでも提供するのだが。

○ 集落全体として街灯が少ない。街灯を増設して欲しい。特に通学路に設置を。高速道路下のトンネルの中で車の改造などをしている若者がいる。他所から来るようだが薄気味悪い。

○ ほ場整備を早くして欲しい。田植え時に水の確保が大変だし，ほ場整備ができれば委託もできるが，今の状態では(委託を)引き受けてくれない。

○ 通過交通の車がスピードを出しすぎる。子供がまだ小さいので不安だ。通勤時間帯は特に注意が必要だ。

○ トンネル内の街灯がしばしば割られる。

○ ゴミの不法投棄が心配だ。

○ 野焼きをしている所がある。

○ クリーンセンターの煙が気になる。

○ 高速道路ができて治安が悪くなったような気がする。トンネルに見慣れない車が長時間駐車していることがあり，気持ちが悪い。またトンネルの壁に落書きなどをする。

□ 土地の基盤整備を一番に要望する。できるだけ自然を残したい。花作りの盛んなところなのに，集落内には意外と花が少ない。花がいっぱいの集落にできたらよいのだが。

○ 朝夕の通過交通がかなり多い。自転車，バイク，車が接触しそうな時があり危ないと思う。

● 野生の藤（山藤）や彼岸花が時季になると美しく咲きそろう。

● 竹の子があちこちに生えていたり，野鳥がさえずる。

具体的な場所は別図のとおりである。

脇里づくり協議会
点検マップ
平成13年3月27日(火)
脇集落センター
点検マップ作成者
第1班
第2班
荒れた田
藤がきれい
道路・水の件
藤がきれい
道が狭い
防犯上、恐い道
廃車・小屋

Ⅱ　地域整備の基本方針

土地基盤整備が未整備なので，農業機械が入りにくいことを始め，農地が分散することに伴い，それに応じて農業用資材置場も分散せざるを得ないなど，農作業の生産効率に支障をきたしているので，土地基盤整備をすることが非常に大事な要素である。ただ，現状では諸事情があり，土地基盤整備に取り組めない状況である。

しかし,この問題については，アンケートでも土地基盤整備は大多数が要望していることなので，将来的には是非推進したい。集落の将来を見越して，次世代の人々が農業に活路を開けるレールを作ることが，当区域にとって極めて大きな目標であるとともに，現役世代の私たちの使命と考える。

Ⅲ　農業振興計画

農業振興に関しては，当地区の現状を踏まえ，生産の盛んな花卉栽培を主体に，野菜栽培，貸し農園の整備からなる三本柱を設定する。

当地区は，農業近代化資金の導入によって設置した大規模なガラス温室などによる施設園芸が盛んで，花の苗物生産農家が多いことから，花卉主体の農業振興を第一の柱とする。

次に，ビニールハウス栽培や露地栽培によるホウレンソウ，小松菜等の軟弱野菜中心の野菜作りも盛んであり，それの振興を二本目の柱とする。

三本目の柱として，市民農園を主体とする貸し農園の整備を考える。

1　花卉栽培計画

市場の動向（消費の需要傾向，価格等）を見据えた計画的出荷に努め，販路の拡大にも気を配る。生活様式の洋風化にあわせ，プランターなどを各家庭の庭先，玄関先に飾るなどの習慣が定着すれば花の消費拡大にも期待が持てる。その他公園の花壇など，公共事業や各種イベント用の契約栽培などの需要に応じていく。

(1)現　状

①主要品目

パンジー，ポリアンサス，ベゴニア，インパチェンス，キンセンカ，季節物(葉牡丹等)を主体に生産。花卉栽培農家は 9 戸。平成 11 年度実績での規模は全体で 27, 900 ㎡，ポット数換算で 563 万個

②出荷形態

個人出荷

③出荷先

大阪植物取引所，神戸市東部市場

(2)対応策

平成９年度から１０年度にかけて伊川谷花卉部会鉢物グループを組織し,『農業キーテクノロジー等導入促進事業』に取り組み，花壇苗のコストダウンと省力化を検討し，苗ポットの土入れ自動化の研究や国の補助事業による台車のリースなどを組み合わせた，ハード事業導入を視野に入れた生産振興を図っていきたい。

2　野菜栽培計画

グループ出荷，共同出荷体制の整備，レンタルハウス事業への取組みなどにより規模の拡大を図る。野菜栽培農家は６戸。

(1)現　状

①主要品目

キクナ，ホウレンソウ，コマツナ，大根などを主体に生産している。

②出荷形態

個人出荷

③出荷先

明石市場，コープこうべ等

(2)課題・問題点

農産物価格の安定化，連作障害等への対応

(3)対応策

ＪＡ伊川支店の日曜朝市への出荷等，多様化を図る。また，新たにレンタルハウス事業への取組も検討する。連作障害については，土壌消毒，作物のローテーションなどで対応する。

3　市民農園整備計画

(1)現　状

現在，２戸の農家が個別に貸し農園（72ａ）を経営しており，区画の大きさ，利用料金等自主的な対応をしている。利用者の募集は観光園芸協会に委託し，「広報こうべ」等で行っている。

(2)対応策

個人的に貸し農園を経営する農家及び新規の農家を募り，市民農園整備促進法に基づく指定を受けて，農園を整備する。それにより，良好な農村景観を形成し，利用者にとっても機具の保管，水の確保，トイレや駐車場などを確保し，利用者にとって便利で快適な環境を提供する。

4　水稲栽培計画

(1)現　状

生産者米価の推移から判断して，今後の米作りには展望が開けない。転作も限界に達しつつある。水稲栽培農家は，自家飯米用だけ栽培している農家も含め16戸であり，コシヒカリを主体に生産している。

(2)課　題

転作対応，農機具の過剰投資に対する取組

(3)対応策

農作業の受委託を推進するとともに，集落営農による対応も検討する。また，将来的には他の作目（花卉や野菜等）に転換する。

Ⅳ　環境整備計画

1　県道明石・神戸・宝塚線

道路の法面（のりめん）には雑草がはびこり，視界が遮られ，ゴミが周囲から見えにくくなるため，空缶等のポイ捨てがされやすい。啓発用看板の設置とともに，伊川の土手沿いの雑草刈りと併せて，当該法面の雑草刈りなどをしていただくよう関係機関に働きかける。

2　集落内農道の拡幅整備

集落内には一部，幅員の狭い農道があり，その拡幅を検討する。ただ，道を広げると通過交通が増える原因にもなるので，それとの関係をどのように調整するかが難しい問題であるが，十分に検討していく。

3　国有林及び周辺の環境整備

国有林の環境整備については，現在十分な管理がなされているとは言いがたいので，必要に応じて所轄の国の担当部署に働きかけ，良好な環境の保持に努める。周辺の環境整備については，集落で定期的な清掃等を行っており，引き続き環境整備に取り組む。

4　水路の整備

集落内の水路の維持管理が悪いところがあり，水路の中に土砂が入り込み，草が生えたりしているので，定期的に清掃するなどして良好な維持管理に努める。

5　街灯の整備

集落全体として街灯が少ないので，通学路を主体に増設を関係機関に要望する。

6　通過交通の解消

集落内の通過交通が多い。特に朝夕の通勤・通学の行き帰りに集中するので，小さい子どもがいる家庭では注意が必要である。啓発用ビラの配布や，看板の設置などで運転者に協力を呼びかける。

7　高速道路周辺の諸問題の解消

高速道路下のトンネル内で壁に落書きをしたり，照明灯を故意に割るなどのいたずらをする者がいる。また，同トンネル内で車の改造をしたり，長時間駐・停車する者がおり，不安に感じる人もいるので，安全で安心して暮らせる里づくりを推進するため，警察などの関係機関に定期的なパトロールなどを要請する。

V　土地利用計画

集落の東の伊川谷駅前周辺，西の池上地区という市街化区域の周辺に位置する土地の地権者においては，市街化区域編入への要望の強い人もいる。土地基盤整備を計画する中で，脇の土地利用を検討する。その際，難問が山積しているため，解決に向けて土地利用部会を設置し，研究する。集落内には，諸事情のため遊休地が随所にあり，それが雑草の繁茂する原因にもなっている。

また，地区外の人による沿道サービス，老人福祉施設，保育所等の計画などもあり，営農及び景観保全の点からも，このような動きに対して集落としての有効な手段・対応を考えていかなければならない。

さらに将来的には、駅前周辺の市街化区域隣接部分について、区画整理事業の検討も行っていきたい。

1　農業保全区域

現在の農用地（田・畑）を主体に，農業保全区域を設定し，農業生産をする区域とする。

2　環境保全区域

現在，環境保全区域に指定されている国有林を中心とする里山を，そのまま引き続き環境保全区域とする。

3　集落居住区域

集落内の比較的住宅が密集した所を主体に集落居住区域に設定する。

4　特定用途区域

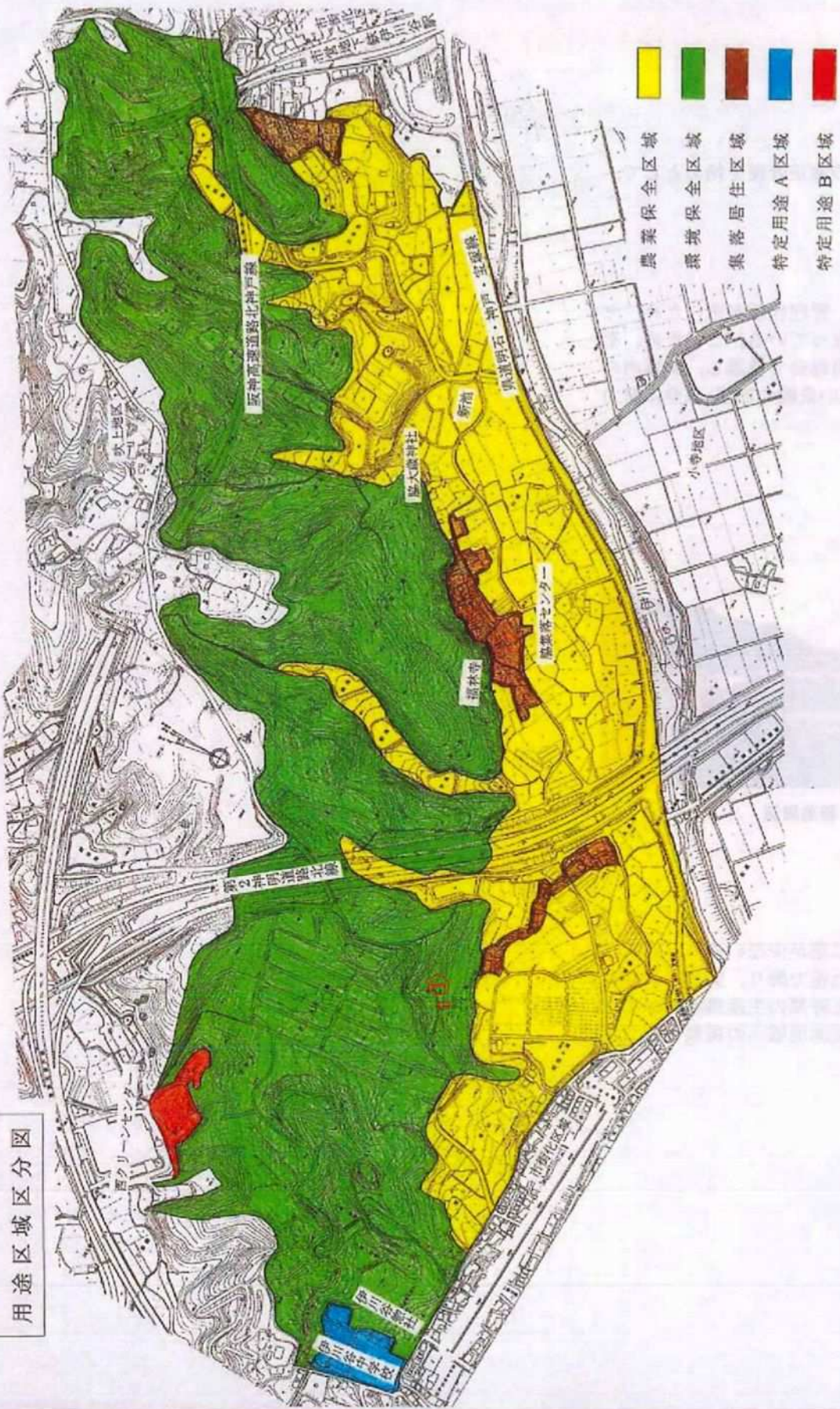
伊川谷中学校の校舎部分をＡ区域に追加し，環境局西クリーンセンターの後背地をそのまま特定用途Ｂ区域とする。

別図の場所は，現在農業保全区域であるが，将来的にこの部分については，特定用途Ｂ区域の指定を検討する。

農村用途区域の面積を表１に示す。用途区域区分図は図１のとおり。

表1 農村用途区域の面積(単位:ha)

区分	農業保全区域	環境保全区域	集落居住区域	特定用途A区域	特定用途B区域	合計
現状	58.9	85.9	0.0	0.8	1.0	146.6
計画	55.0	85.2	3.9	1.5	1.0	146.6

図1
脇地区土地利用計画
用途区域区分図
西クリーンセンター
吹上地区
第2神明道路北線
阪神高速道路北神戸線
市営地下鉄伊川谷駅
伊川谷中学校
伊川谷神社
脇大歳神社
福林寺
新池
県道明石・神戸・宝塚線
脇集落センター
市街化区域
伊川
小寺地区
農業保全区域
環境保全区域
集落居住区域
特定用途A区域
特定用途B区域

土地利用計画に位置付ける施設

番号	施設	所在	地目	面積（㎡）
①	駐車場	神戸市西区伊川谷町上脇字池ノ内559番16	雑種地	120

VI　景観保全計画

良好な景観を形成･保全するために，当面気になる遊休地の適正管理を始めとして，ため池の整備等を検討する。

1　遊休地の整備

集落に点在する遊休地は，諸事情により耕作がされず，管理状態が悪いため，セイタカアワダチソウなどの雑草が繁茂する大きな原因となっている。このため，そのような土地を地権者自らが管理できないなら，土地利用部会で協議し，集落内の人か，第三者に管理を委託するなどの方策を検討し，美しい景観の形成･保全に努力する。

2　ため池の整備

池が浅く貯水量の少ない池（新池等）については，池の浚渫などを行い貯水量アップに努める。

当地区だけの問題ではないが，ブラックバスを狙う釣り人が，集落内の池で釣りをする。その際，切れた釣り糸や引っかかったルアー（擬餌針の一種）を釣り人は回収せず，放置するので危険である。注意看板を立て，釣りのマナー啓発を推進する。看板を引き抜いたり，壊すなど悪質な者に対しては，警察へ通報するなど厳しい態度で臨む。

新池周辺

3　花いっぱい運動への取組

当地区は，花の生産地でありながら，集落内には意外に花が少ないので，通学路をはじめ集落の随所にプランターを配置し，四季に応じた花で飾り，美しい景観を創造する“花いっぱい運動”を展開する。そのために花と野菜の生産農家がお互いに連携し，協力・補完しながら取り組む。必要に応じて先進地域への視察を行うなど，積極的に研究をしていく。